



島根県公立小中学校
事務職員研究会

会長：林 由里
(松江市立美保関中学校)

編集：広報部

VOL.43 2011.12.12 (時雨号)

発行責任者 福井義信 (川本中学校)

島事研ホームページ

<http://www.oh-net.com/~kenjiken/>

爽

SOU

【目次】

- ▶ 「島事研の活動に関わって」
(島根大学教育学部 講師 熊丸真太郎)
- ▶ 事務グループ活動 (飯南町の取組)
- ▶ 県大会参加者の感想
- ▶ 研修あれこれ
- ▶ 「浜田教育事務所に勤務して」
- ▶ 財務ウィークアンケート
- ▶ 事務歳時記
- ▶ 人権コーナー
- ▶ まんが「フーちゃん」
- ▶ 編集後記



「島事研の活動に関わって」

島根大学教育学部 講師 熊丸 真太郎

「島根の未来を切り拓く子どもたちの豊かな育ちを支援する」(『島事研ビジョン』)

この島事研のミッションをいかに具体的な取組につなげていくか、このことは容易ではありません。ただし、島事研の活動に関わるようになり、多くの事務職員のみなさんの話をお聞きすると、県内の各地で取組が進んでいるとも感じています。

島事研の活動に関わるようになったのは、今年度開催された全事研鳥取大会の発表に向けた研究委員会の活動からでした。当初は、2年以上前から研究発表に向けて準備を進めていることに驚いた記憶があります。それ以上に、よい意味で驚かされたのは、事務職員のみなさんの学校経営に対する意識です。

多くの場合、小中学校では、事務職員は一人体制です。そうすると、他の事務職員から「事務職員」の目線で仕事を見られることが少ないはずですが、場合によっては、与えられた仕事を問題なくこなせばよいと考えてしまうかもしれません。しかし、島事研の取組や各種研修会での議論は、単に与えられた仕事をより効率的に行うという視点からだけではありません。さらに上を行く事務職員の仕事が学校全体の教育活動にとってどのような意味があるのか、子どもたちの学校生活にどのような意味があるのか、そうしたことも見すえた取組や議論なのです。学校経営を専門とする者として、こうした視点から学校のあり方を考える教職員が多くいることをうれしく思います。

近年の教育改革では、教育の内容や方法の改革と共に、学校経営の面での改革も求められています。学校支援地域本部や学校運営協議会(コミュニティ・スクール)、小中一貫教育などはその代表例です。ただし、そうした施策はあくまでも「道具」でしかありません。各学校で、教員だけではなく事務職員も含め、どのように子どもたちの育ちを支えていくか、目標から教育の内容・方法、それを実施するための体制など筋の通った計画を考え、実行していく必要があります。

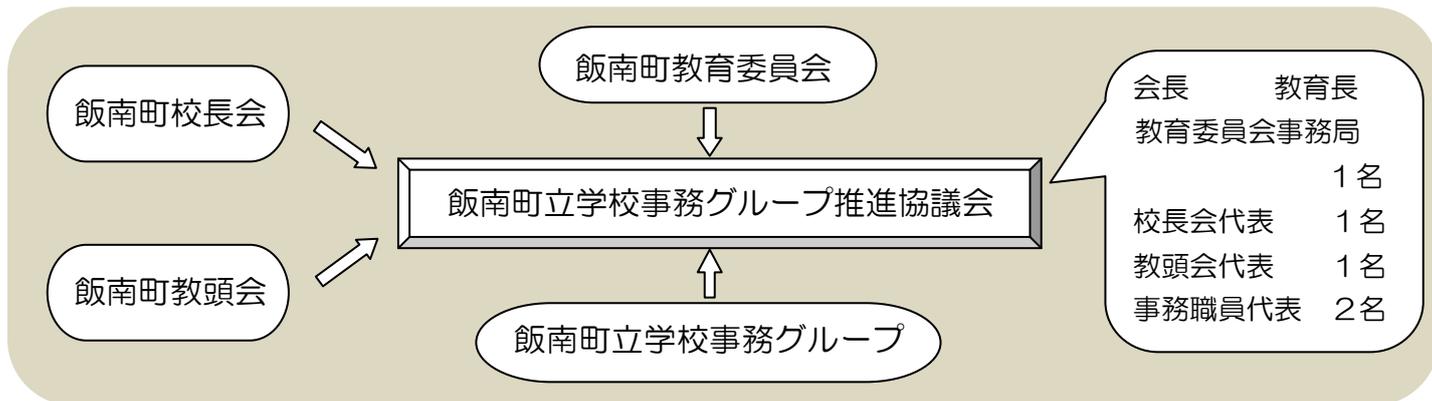
もちろん、経験年数や学校の体制などによって、どの事務職員も同じように学校経営に関わっていけるわけではありません。事務職員全体のレベルアップも必要でしょう。事務職員全体のレベルアップは、学校事務全体のレベルアップにもつながります。他の事務職員との交流や研究活動を通して、事務職員全体のレベルアップを図る機会を島事研が提供しているのではないのでしょうか。

それと同時に一人で優れた取組を考えるよりも、複数で日頃の取組を磨き上げていくことも学校事務のレベルアップに向けたアプローチとして有効でしょう。島事研が、他の事務職員と共に日頃の取組を磨き上げていく場としても、重要な役割を果たしていくことを期待しています。



飯南町の事務グループ活動

飯南町では平成22年度に事務職員1名の加配を受け、飯南町立学校事務グループ推進協議会を立ち上げ、事務グループ活性化のための活動を開始しています。



飯南町立学校事務グループ会は中学校2校，小学校4校で構成しており，加配を受ける以前から月1回程度のグループ会を開催し，お互い一人職場である悩みや効率的に事務処理を進めていく手立てなどを話し合ってきました。その成果として既に事務のキーポイント，事務処理のQ&Aの作成などの情報ネットを活用した取組があります。これらは制度の改正に伴う見直しが絶えずついてくるもので，継続的な取組が必要です。そのため事務職員がそれぞれ分担して更新を繰り返し，タイムリーな活用が図れるようにしています。

事務グループの活性化のための加配を受けたことにより，平成23年度からは，事務リーダーの行動が時間的，地域的に緩和され，各学校に出かけ個別指導をすることができるようになりました。事務リーダーが学校訪問することにより，各学校の日常業務の点検や一人では解決できない課題の相談など，確実な事務の遂行や複雑な事務に対する適切なアドバイスができ，個々の事務能力のレベルアップや事務の効率化にもつながってきています。

平成22年度の主な取組

備品の共同購入
就学援助事務の充実
保護者負担軽減への研修
事務カレンダーの作成
事務のキーポイント
Q & Aの更新
新任・転入者支援

平成23年度の主な取組計画

⇒ 引き続き実施
⇒ 引き続き研修
⇒ 引き続き研修，制度化研修
⇒ 手入れの実施
⇒ 引き続き実施
⇒ 引き続き実施
⇒ 引き続き実施
全校行事予定表の作成
教職員向け事務だよりの発行

今年度から飯南町にやってきました。

事務グループ会や事務リーダーの学校訪問に助けられ，少しずつ業務に慣れてきたように思います。小規模校なので児童との関わりも多く，元気な子どもたちと楽しく過ごしています。

赤名小学校

佐津間仁美



生命地域

飯南町

小さな田舎からの「生命地域」宣言
「いのち彩る里 飯南町，」



小さな町に一つしかない小さなグループです。何を行うにも全員で行わなければできません。教員の事務負担軽減につなげることは難しいけれど，今できることを考え，ゆっくりあせらず活動をしていきたいと思っています。

飯南町の学校事務グループの充実に向けて

頓原中学校 校長 小林 彰

飯南町では、保護者や地域の皆様の学校教育に寄せる関心や期待は大きく、町からも学校教育に対して手厚い支援をいただいています。

このようなありがたい状況の中で、飯南町では、昨年度から1名の事務職員が加配されています。このことにより、町内の小学校4校、中学校2校の事務グループ会では、いかに学校事務の充実を図っていくのかを大きな課題としています。最初に事務の共同実施や加配ありきではなく、共同して行った方がよい内容は何か、また、従来通り、それぞれの学校で行った方がよい内容は何かなどを考える契機になりました。つまり、みんなで力を合わせて取り組むところ、それぞれの学校の個性を尊重するところのすみ分けが必要となりました。飯南町の事務グループ会が事務職員の加配を契機として、どのように学校事務の活性化を図っていくのかを、事務リーダーを中心としてしっかりと検討され、さらなる充実に向けて取り組まれたことは、大変すばらしいと思います。

具体的な主な活動としては、事務リーダーが各学校へ訪問することによる個別支援、町事務グループ会の月1回の会合による共通理解、備品の共同購入、事務だよりの発行、事務カレンダーの修正、パソコンデータとして共有できる町内6校の年間行事予定の作成などがあります。

今後、事務職員の加配をさらに生かすことで、教職員の意識改革や資質・能力の向上、さらには、学校運営や学校教育の活性化や充実を期待しています。飯南町校長会としても、学校事務の充実に向けて一層、協力をしていきたいと考えています。今後も関係機関の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いします。



学校事務と学校の活性化について

飯南町教育委員会教育長 安部 亘

本町には4校の小学校と2校の中学校があり、それぞれがいずれも小規模校です。少子化が急速に進展する中で、保小中高一貫教育を推進していますが、地理的条件などから困難な面もあります。しかしながら、児童生徒の明るく素直な成長を見るときにその効果は現れつつあると感じており、更なる推進に努力してまいりたいと思います。

こうしたことを推進していく上では、すべての学校の教職員が共通認識を持つことが求められており、事務職員も学校運営に積極的に関わっていくことが絶対条件となります。これまで兎角、一人職場として成り立っていた学校事務が、事務グループ活動により、各学校間の連携のみならず町内教職員に新たな意識を醸成させることになっていると感じます。

事務グループ活動は「事務の効率化」として費用効果の面からも当然のことではありますが、管理職にも事務のあり方を考えるいい機会になったと思います。加えて事務職員の皆様にも従来どおりの踏襲ばかりでなく、新たな発想を期待するところです。

学校は地域の宝、地域文化の象徴でもあり、「学校が変われば地域も変わる」と言われています。また少子高齢化が進行する中で、地域活性化にとっての大きな要素でもあります。こうしたことを教育委員会、学校が再認識しながら学校の活性化に取り組んでいく必要があります。すべては児童生徒の育成につながることを念頭に置きながら、事務グループ活動も本町の教育行政と密接に連携しながら、本町の特徴を生かした組織として更に充実したものとなるよう切に願っています。



- ◇ 行政説明（県教育委員会）
- ◇ 講演「新しい公共と学校運営」京都造形芸術大学教授 寺脇 研
- ◇ 研究発表 研究委員会「全事研大会発表報告」
松江地区「松江市のグループ活動について」
「落ち込むこともあるけれど、学校で働くことが大切」

「新しい公共と学校運営」の講演を聞いて、「教職員として生徒を指導する」というよりも、個人として主体的にできることをする、または個人がしようとするのを手助けすることが新しい公共に繋がるのだと分かった。生徒が何かしたいと思ったときに、活動の手伝いをしたり、NPOやボランティア組織に結びつけるような力が、学校にあれば良いと思う。ただ、個人のやる気が行動の原動力だと、モチベーションの低下を理由に行動をやめてしまうことも多々あるのではないかと。「新しい公共」においてそれは是なのか非なのか、寺脇先生に伺っておけば良かったと思っている。

雲南市立大東中学校 植田勝尚

近年、わたしたちを取り巻く環境は大きく変化しました。学校を陰から支えるような「縁の下の力持ち」ではなく、「教育課程づくりへの参画」を目指すような、教育課程の一翼を担う学校事務職員に変わりつつあります。とはいうものの、具体的にどんなことをすればいいのかが全く分からないまま、日ルーチンをこなすだけの毎日を過ごしていた最近でしたが、今回の県大会に参加することで、今私たちが目指さないといけない場所への道標を得たように感じました。特に、島根中 嘉藤さん、来待小 渡部さんの実践発表は、これからの私たちの目指すべき姿のヒントを得ることができたように感じます。

隠岐の島町立磯小学校 渡部大吾

神の旅 一泊二日 県大会

ここ数年の県事研大会は、中身が濃くなってきたように思う。行政説明や講演講師など、全国的な視野から招聘できるのも、全事研との関係によるものであろう。また研究委員会の発表も、今回のように各地域の取組をピックアップして検証するという方法は、一つの手段としてとてもよい方法だと思う。結果的に市郡会員が研究の一部を手伝ったことにもなり、研究委員会の方々の負担が少しでも軽くなったのであれば幸いである。島事研の更なる充実に期待する。

大田市立久屋小学校 森山 訓

「だれの仕事か」「担当が違うから」という言葉が引っ掛かっていたこの頃だったので、「新しい公共」という言葉が印象的でした。できる者がすればいいと思う反面、わたしだけしかできないようにしていることもあるのでは・・・？自分のため、組織のために業務の標準化をしていきたいと思いました。

松江市立意東小学校 齋藤結美

「新任主任研修」

浜田市立石見小学校 山田 早苗

8月18・19日に、平成20年～23年に主任に発令された県内7名が、新任主任研修を受講しました。1日目に事務リーダーと行ったグループ協議では、それぞれが抱えている課題をテーマに、KJ法で改善案を出し合いました。今抱えている課題を、これから実践して少しずつ解決に向かえるようなアドバイスをたくさんいただきました。2日目は、島大の熊丸先生によるキャリアデザインの講義でした。採用から現在までを振り返り、自分を見つめ直す事ができ、新しい発見をしました。これからどういう自分でありたいのかを考える時間をいただき、とても有意義な研修でした。2日間を通して、同じ年代の仲間の考えや意見からたくさんの刺激をもらいました。

研修あれこれ

「会議運営スキルアップ講座」

浜田市立第二中学校 長本法恵

(主催：島根県自治研修所) 講師 (社)日本経営協会 中谷 康

【キーワード】

「会議」を「思考停止の場」から「日常やっている仕事の場」にもどす。
(会議になると思考が停止していませんか??)

「会議運営はマネジメント能力の集大成!」 「会議こそ効率化が必要」

①会議の種類を特定する

- ・情報伝達、意見交換、創造的問題解決、調整・根回し、交渉、意思決定 の6つ
- ・情報伝達会議は伝達のみなら回覧でもよい。(やめる)

②会議を設定する

- 留意点
- ・MEETINGの視点(資料、場所、参加者、時間、論点、名前、ゴールの6点)
 - ・白板(ホワイトボード)を使い、会議を可視化すること。
 - ・問題を課題にし、何をどうしたい会議なのか明らかにし、毎回到達目標を持つこと。

③アジェンダ(協議事項・議事行程表)で運用

- ・協議事項・議事行程を参加者と共有する

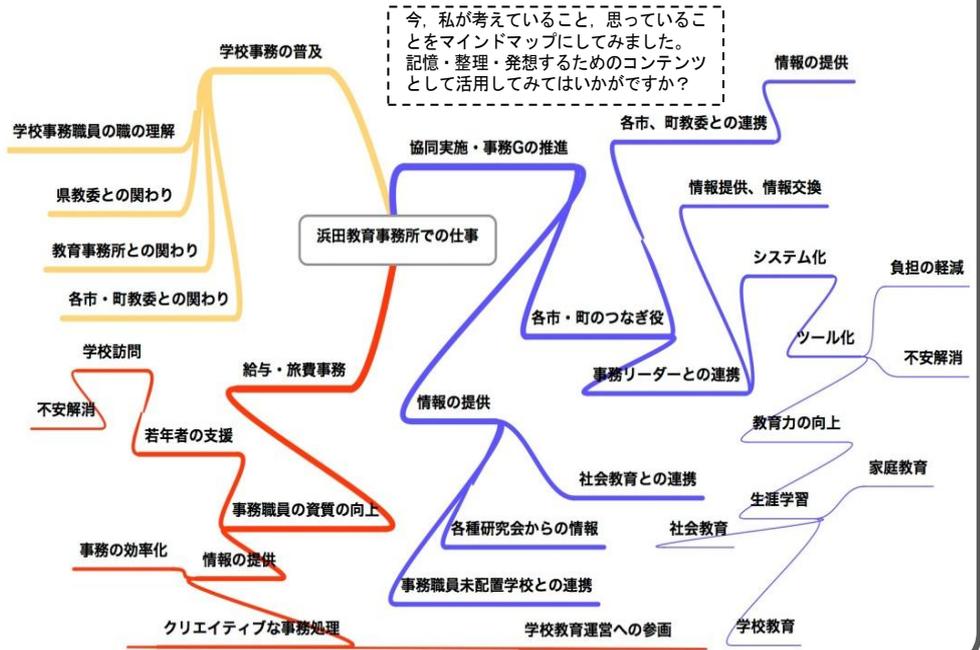
④評価(やりっぱなしはだめ)

- ・「段取り力向上講座」「業務改善講座」も受講したが、どの講師も、受講によって得た知識をもとに、実際にやってみないと意味がないと言われ、実践を心がけることで、仕事に対する視点がかわった。
- ・選択研修自体、様々な業種の方と出会ういい機会である。

浜田教育事務所に勤務して

浜田教育事務所 長本 司

今年の4月から浜田教育事務所で勤務しています。今まで深く考えず、書類を作成し提出していましたが、今はそれを受け取る側になりました。給与、旅費が支払われていることの重みを痛感しています。浜田教育事務所では給与、旅費のみでなく、共同実施の推進や学校の事務支援も職務として位置づけられています。今まで見てきた学校事務の世界を、違った視点（世界）からみることによって、学校事務はもちろん、教育にも還元していかなければなりません。教育事務所に勤務することの「強み」を明確にし、学校現場の「弱み」を克服できたらと思っています。今後も学校により近い存在であるよう職務を全うしたいと思います。



今、私が考えていること、思っていることをマインドマップにしてみました。記憶・整理・発想するためのコンテンツとして活用してみたいかですか？

学校財務ウィーク

11月1日から11月7日



島事研では、学校財務への取組を今年度の重点としています。その取組の一つとして、「学校財務ウィーク」の活動参加を呼びかけました。それにあわせて、皆さんに普段どんな取組をされているか聞きました。



どんな取組をしていますか？

安全点検の担当となり、点検後、管理職、校務技能員と修理個所の確認を行い、修理、営繕要望につなげている。またその結果を職員に周知している。(出管 Y)

公費予算については、事務だよりで示している。特に学校の重点的取組や支援員さんの県費非常勤の配当時間割等も知らせている。(出管 A)

行事の予算を示す際に、前年度、前々年度の実績を示して説明している。
ex.入学式、体育祭、学習発表会、卒業式
(出管 A)

起案書に経費の欄を設け、行事や教育活動と予算の関連を意識づける。(出管 M)

教科ごとの年間指導計画の中に、購入予定品名・価格を示し、教科担当と購入時期・経費負担区分の検討等を行う。(出管 O)

年度初めに各教科や部活動担当者から予算要望書を提出してもらい、公費、私費、学校の全ての予算を1枚にまとめ、年間配分を示している。(出管 M)

全校朝礼で、購入備品や修繕したところを紹介したり、学校予算について話し、節電節水に結びつけたりしている。話した後は、子どもたちからの希望の声を聴くようにしている。修繕のピフォー・アフターを、事務だよりにして保護者向けに配布しており、校舎の壁に掲示もしている。(出管 K)

年間行事計画を元に、経費の支出元一覧表を作成し、行事や教育活動に必要な経費がどの会計からどのように出ているのかを一元化して示し、事務職員はもちろん職員全員が共有し見通しを持つことができるようにしている。(出管 M)

今後取り組んでいこうと思っていることは？

財務ウィーク期間は取り組むことが難しいが、学校で期間を決めて取り組むことも意識づけになるのではないかと。(出管 A)

学校コスト一覧表を作成し、職員に周知したい。(出管 M)

職員への発信は行っているが、今後、保護者、児童、地域への発信を行っていききたい。(出管 Y)

保護者負担の購入品について、学年部に任されていることが多く、購入計画段階でのかわかりが難しいが、一覧表で表し検討していくことで次年度への改善につなげていきたい。(出管 O)

何か取り組もうと思ってもなかなかできない。でも自分にできることからチャレンジしてみませんか。

事務歳時記

久屋小学校
森山 訓

夏帽子 昔はいつも 外にあり

夏休みもいよいよ佳境に入ってくる。昔の夏休みの宿題といえば「夏休みの友」であった。午前九時までは勉強の時間とされ家から出られなかったが、その時間が過ぎると夕方まで家に帰ることはない。麦わら帽子はどこへ行ったのだろう。

おはようの 声爽やかに 登校す

いよいよ二学期、長かった夏休みも終わってしまえばあつという間である。また学校へ行かなければならないが、学校へ行けばまた友だちとも会えるし、楽しい行事も待っている。始業式の朝、昇降口ではおはようの声が爽やかに聞こえる。

秋遠足 先頭若き 教師かな

天高くさわやかな日本晴れの季節になると、学校では遠足に出かけるところも多い。バスに揺られて行く遠足もあるが、今年は登山である。疲れを知らない子どもたちは、元気いっぱい登っていく。その先頭を行くのは若い教師である。

放課後の 歌声高し 秋の暮

秋はスポーツの秋、文化の秋、何をするにも一番よい季節である。連合音楽会も近づいてきて、毎日の練習もだんだんと熱が入ってくる。天使の歌声と称される美しいハーモニーが自慢の学校では、放課後の歌声がだんだんと大きくなっていく。



人権 コーナー

日々の生活の中で…

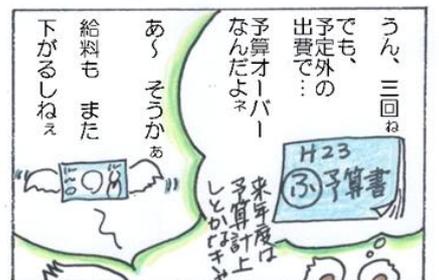
浜田市立後野小学校 細川美帆

最近、とても嬉しいことがありました。それは、ある人から「すごいねえ。」と言ってもらったことでした。

それは日常の些細なことなので、人に言えるようなことではないのですが、ただ、前から自分が努力していたことで、唯一ちょっとだけ自信を持っていることでした。今まで、そのことに何か言われたこともなかったし、自分から口に出して言うようなことではないと思っていたので、初めて「すごいねえ。」と言ってもらえた時は、とても嬉しい気持ちでいっぱいになりました。もしかしたら、社交辞令だったのかもしれないけど、私にとっては、言われた内容や言葉ではなく、私のしていることに気づき、感じて言われたということがとても嬉しく思いました。頑張ってきて良かった…これからも頑張ろう…と強く思いました。

私は、この出来事から、誰かに気にかけてもらうこと、感じてもらうこと、そしてそれを言葉で認めてもらうということは、とてもありがたいことで、大きな自信を持つことができる大事なコミュニケーションの一つであることだと改めて実感しました。

日々の生活の中で、相手の良いところに気づくこと、感じることで、その場で伝えることをこれから心掛けたいと思いました。そのことで、毎日出会う学校の子どもたち、一緒に働く職員など周りの人たちが少しでも笑顔になれるよう頑張っていきたいと思います。



原作：千葉ひろみ 画：大橋幸子

【編集後記】

この季節になると学校にハットウジ（カメムシ）がどこからともなくやってきます。先日、自分の近くで匂う…と思い、スリッパの裏を見るとつぶれたハットウジがくっついていました。その状態で歩き回っていたので職員室が臭かったのは、言うまでもありません…。大量発生する時は大雪が降ると言われていますが今シーズンはどうでしょうか？

慌ただしい年末になりましたが、皆さん体調に気をつけて乗り越えましょう。 Y.S

